

平成 22 年度

心に響く人生の達人セミナー 講演内容

長崎県立奈留高等学校

講師：日本鳥類保護連盟 野鳥写真家 有江 悟先生

演題：『鳥の生き方に学べ』

私は、1960年、ディーゼルエンジン技師の父の六男として、長崎県上対馬に生まれました。鳥に興味を持ち始めたのは、15歳の春に一羽のカラスと出会ったことに起因します。台風で巣から落ちた一羽のカラスの子を育て、足輪をして野に返しました。その年の秋に入学祝いでもらった大切な時計を芋ほり中に落とし探していたところ、足輪をしたそのカラスと他の二羽が時計を見つけてくれたことに感動し、鳥たちとの会話の手段としてカメラを始めました。

本日、私が皆さんに伝えたいことは大まかに2つあります。一つは、根本の母性愛・人間愛とは何かを考える「きっかけ」にしてもらいたいということ、もう一つは人生の先輩として職業観や人生観、倫理観を伝えたいということです。

最近のニュースで、子どもの親殺しや親の子殺しなどが多発していると聞くことがあります。そのようなことは鳥の世界では考えられないことです。今日は、

ケリとミサゴという2種類の鳥の子育ての様子を映像を通して見ていただきます。ただし「たかが鳥」だと思わないでください。映像では、親鳥が子どもたちに餌を与える姿や、子どもたちを外敵から守る懸命な姿を見ることが出来ます。「鳥が雛を育てるのは単なる反射行為で、そこには母性愛などない。」という考えは単に人間が決めたことです。鳥も人間と同じ動物であって、自然界の一部なのです。鳥の歴史と人の歴史を比べ、鳥の能力と人の能力を比べてみましょう。そこから鳥の持つ母性愛や家族愛が見えてきます。現代社会に欠けつつある親子のあるべき姿があります。

さて、皆さんの中に親のことを「クソばばあ」って言ったことがある人いませんか？

【会場の生徒を指名】

こういう言葉を口に出すのと喉元で止めて出さないのでは大きな違いがあります。今後



講演会の様子

このような言葉を言いそうになったときは、是非喉元で止めてください。

まあ、多かれ少なかれ親に不満を言ったりすることはあるでしょう。でも、君たちは望まれて生まれてきたのです。生まれたての赤ちゃんには何もありません。パソコンで例えるならば、頭の中の大容量のハードディスクには何も入っていない状態です。ただし、このハードディスクの中にはたった2つだけ既にプログラムされています。赤ちゃんに神様が授けた2つの能力、それは『泣くこと』と『笑うこと』です。赤ちゃんが笑うと両親は「笑った、笑った」と母性愛を揺り動かされ、また、赤ちゃんをあやす。こうやって、何もなかったハードディスクに日本人のOSを組み込んでいくのです。でも、これではありません。目に見えるだろうか、耳は聞こえるだろうか、走り出すと怪我しないだろうか、中学・高校では受験は大丈夫だろうか、親は常に前準備をしてOSを入れ続けます。それは、君たち子どもが可愛いからです。そうやって、みんなは望まれて生まれて愛情をいっぱいもらって今があります。

だから、みんながこれからはその恩返しをしなくてはならない。「親孝行」をするんです。親孝行の孝とは、子供が親を背負っていくという意味です。どんな小さなことでも構いません。親孝行してみてください。

私は上対馬出身ですので、奈留島と似た環境だと思っています。いずれは故郷である奈留島を離れる人も多いと思います。目をつぶっても奈留島の景色が描ける。山や海があって、そこに父と母がいて・・・、それが故郷です。親を大切に、故郷を大切に、立派な若者へ育ててほしいと思います。

【DVD 鑑賞】



映像を交えて分かりやすく説明



有江先生の質問に答える生徒
講演は時折対話形式で進められた

～ケリ・ミサゴのニュース映像～
ミサゴは本来ボラを捕るんですが、今は海がやせてしまっている。そこで、養殖筏に飛び込んでハマチなどを捕っています。
ケリは、通常は親鳥が捕食される関係のハヤブサに、子どもを守るために勇気を持って立ち向かっています。子どもを守るためにケリの取った行動は、

人間が素手でライオンに立ち向かうようなものです。親鳥の子どもを思う心の偉大さが感じられますね。

～小鳥（ホオジロ）の子育て～

鳥も、父は父、母は母の仕事をしています。父親は餌の与え方が雑ですね。それに対して母親は丁寧に与えます。また、母親は常に雛に声をかけています。餌の与え方を見ると、鳥は数が分かるんですね。雛が食べた回数を確認し、糞の処理をし、そうやって一億五千万年もの間進化し、色々な能力を手に入れたのです。先ほど、人間も自然界の一部であると言いました。人間は、文明的には進化しましたが、動物的には退化したのかもしれない。

～カワセミの写真から～

では、私が写真家としてどのような写真を撮っているかを紹介します。カワセミは狙った魚を遠くから性格に測量して、一気に川に飛び込む。急所を一瞬に捕らえて飛び出る。その時間は 0.8 秒くらいという早業で狩をします。



カワセミ～命の弾丸～

では、なぜ私が写真家になろうと思ったのか。それは、9.11 のアメリカ同時多発テロがきっかけでした。当時私はコダックという会社に勤めていたのですが、このテロがきっかけでリストラの波に吞まれ、21年間勤めた会社を辞めました。これからどうしようと悩みました。そのとき考えたこと、「人生どう生きるか」じゃなく「人生どう生きたか」だと。自分が最期に目を閉じるときに、俺の人生ってなんだったんだろうと思うかなって。高校生のときカラスに救われたことがきっかけで、鳥の写真をとっていました。それでコダックに就職したわけです。コダックでの 21 年間は私に写真家としての知識と技術を十分身につけさせてくれました。だから、リストラされたとき、迷うことなく写真家として生きていこうと決意できました。

コマ回しをしたことがある人もいると思います。私の家は貧乏だったので安い 30 円のコマしか買えませんでした。けれど、30 円のコマでも 1,000 円するコマに勝つ方法があるんです。それは、30 円のコマの真ん中に釘を打つこと。それが軸となりコマは回り続けるんです。自分の中心に軸をもつ、そうすれば何があってもぶれないんです。そういう軸となるものをみなさんにも持ってもらいたいと思います。

【DVD 鑑賞を終えて】

最後に、みなさんにこれらの言葉を紹介したいと思います。



一つは、「人生の歩き方」。今日最初に考え方をかえてほしいと言いました。今日配った飴玉の中に小さな紙が入ってるでしょう、それを見てください。

「**考え**が変われば**態度**が変わる、**態度**が変われば**行動**が変わる、
行動が変われば**習慣**が変わる、**習慣**が変われば**運命**が変わる、
運命が変われば**人生**が変わる。」

まずは、考え方を改めてみてください。親に対する考え、友達に対する考え、色々なことに対して考えを変えれば、何かが変わってくると思います。

次に、この言葉です。

あたりまえのことを あたりまえにやれば
あたりまえのことが あたりまえにできる

若いうちに、「当たり前のことを当たり前にする」ことを身につければ、人生の後半に、「当たり前のことが当たり前になる」ようになります。

乳児期には肌をはずさず、幼児期には手をはずさず、少年期には目をはずさず、そして青年期には心をはずさず。皆さんの両親はそうやってあなたたちを育ててきました。そのことを忘れず、世の中に出たら、今度はみなさんが望まれた命を育てていってください。今日の講演を通して、何か一つでも考え方を改めてもらえたらと思います。どうも、ありがとうございました。



雛を大事に抱く「ケリ」